第132回火山噴火予知連絡会
口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。今後も5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島では2015年5月29日09時59分に新岳火口から爆発的噴火が発生し、大きな噴石が火口周辺に飛散し、黒灰色の噴煙が火口縁上9,000m以上に上がりました。

この噴火に伴い発生した火砕流は、新岳火口からほぼ全方位に広がり、北西側は海岸（向江浜地区）まで、南西側では海岸付近まで、また南東側では中腹まで流下しました。

噴火後に火口底は深くなり火口壁の一部が消失しましたが、火口縁の西側割れ目及び南側割れ目の形状には大きな変化はないことから、今回の噴火は既存の火口内で発生したものとみられます。

また今回の噴火は、昨年（2014年）8月3日の噴火を超える規模と推定され、噴出した火山灰の分析からマグマ水蒸気噴火と推定されています。

噴火前の5月18日以降、最大M2.3の地震を含む地震活動の活発化がみられ、噴火の直後から同日の13時にかけて多数の地震が発生しました。また火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は5月中旬から減少し、5月下旬には1日あたり300～700トンでしたが、噴火直後は1日あたり3,800トンと非常に多くなりました。

5月31日以降は噴火は発生していませんが、現在も白色噴煙の活動は続いており、火山性地震も少ない状態ながら発生しています。二酸化硫黄の放出量も1日あたり1,200トンと多い状態です。

これらのことから、火山活動は活発であり、引き続き5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散や火砕流の流下が予想されますので、厳重な警戒（避難等の対応）が必要です。新岳火口の北西から南西にかけての沿岸海域でも、火砕流による影響が及ぶ可能性があるため警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要です。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要です。